

令和7年度 小平第二中学校特別支援学級G組 学級経営計画

1 小平市教育委員会教育目標

めざす人間像

「社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人」

計画の基本理念

「はぐくみ・支え合い 学びでつながる 小平の人・まち・未来」

教育の目標

- ◇将来の社会を支えるすべてのこどもの「生きる力」をはぐくみます
～自立 小平で基礎を培う～
- ◇学校・家庭・地域が互いを育て合い、こどもを支えます
～共生 小平で共に成長する～
- ◇市民が支える新たな生涯学習を実現し、次世代に引き継ぎます
～貢献 市民が小平を育てる～

2 学校教育目標

- ・自ら考え、正しく判断し、積極的に実践する人間
- ・明るく健康で、情操の豊かな人間
- ・社会の一員として、協力し、向上に努める人間
- ・相手の人格や立場を尊重する人間

3 G組学級教育目標

- ・基本的な生活習慣を身に付け、生活自立の力を付ける。
- ・自分で考え、判断し、行動できる力を付ける。
- ・基礎的知識と技能を身に付け積極的に社会と関わる力を付ける。
- ・人との交流を通して思いやりの心をもつ。

4 目標を達成するための基本方針

- ・日常生活の指導、教科指導、仕事の指導を重視し、学習活動にバランスよく配置することにより社会で生きるために必要な総合的な力を育成する。
- ・基礎的知識と技能の習得を重視し、自らの資質・能力を発見させ、思考力・判断力・表現力・想像力などの力を伸ばす指導を進め、生きる力の育成に努める。
- ・友達や教師との関わりを通してコミュニケーションの力を高め、適切な人間関係を築く力を養い、思いやりの心を育む指導を進める。
- ・中学校段階でのキャリア教育を重視し、日常の学習活動で意識的に取り組むことにより、自己の特性を知り、主体的に社会参加できる力を育成する。
- ・一人一人の生徒の状況及び発達段階や特性を把握し、習熟度別の学習集団の編成により個に応じた学習を進める。また、年間指導計画において学習活動・指導内容を明らかにするとともに、個別指導計画及び学校生活支援シートに基づいた指導を進める。
- ・学校と家庭が協力して共にこどもを育てていくという視点に立ち、こどもたちが学校・家庭・社会生活を主体的に営むことができるように協力体制を構築する。

5 指導の3本柱

- (1) 日常生活の指導
- (2) 教科学習の指導
- (3) 仕事に関する指導とする。

<それぞれの重点項目>

(1) 日常生活の指導

○規則正しい生活習慣の確立に向けての指導（家庭日課帳、長期休業のしおり、他）

- ・適度な運動
- ・バランスのとれた食生活
- ・十分な睡眠

○生活自立に向かうための学習（衣・食・住・他）

- ・衣→着替え、身だしなみ、たたみ方、しまい方、その他
- ・食→食事の仕方、準備、片付け、その他
- ・住→掃除、整理、その他

○社会自立に向かうための学習

- ・決まりを守る、決まりを作る、自律をめざす活動、コミュニケーションの力、集団と個の認識など社会性を高める活動（時間・ルール・マナーを守る）
- ・日常生活における作業や仕事をやり抜く力と計画力、係活動など仕事に向かう姿勢

○教科の基礎になる学習

- ・日常生活の中には、教科に分化していくための基礎となる内容が多く含まれている。その視点に立ち、教科に発展させていく活動を準備する。
（日記・作文指導、日課、予定、その他）

(2) 教科学習の指導

○基礎的な知識の学習

- ・一人一人の生徒の状況により学習課題を設定し、個別指導計画に基づき各教科での指導を進める。
- ・集団での指導を基本とするが、教科によっては小集団に分かれ、一人一人にわかりやすい授業を行い、知識の定着と探求心の伸長を目指す。

○基礎的な技能の学習

- ・手指の巧緻性や作業の技能を高め、計画力や実行力を身に付ける学習を進める。
- ・作業の正確さ、効率、集中力の持続を意識させ、発達段階に応じて身に付けさせる。
- ・具体的な制作活動、表現活動において自分のもてる力を最大限に発揮できる活動を準備する。好奇心や達成感を通して自己理解を深めるとともに次(将来)への活力を育てる。

○表現する力の学習

- ・他者の話や意見をよく聞き、自分の考えや思いを表現し伝えること、さらに、やりとりすることを通してコミュニケーションの力を高めていく学習を進める。
- ・道徳科の授業や学校行事をはじめとして、集団に参加し活動することで、集団でのコミュニケーションのとり方、コミュニケーションルール等の学習を進める。(SST:ソーシャルスキルトレーニング)

(3) 仕事に関する指導

○各教科や各教科を合わせた指導を中心とする指導

- ・職業科では、仕事に必要な基礎的な学習をしていく。日頃の清掃作業等を発展させた校内実習（全学年）を設定し、実労働に近い仕事体験から将来へ向けた自己認識、自己発見の力を付ける。職場体験実習（3年生）を設定し自立に向かう自己発見の機会とする。
- ・総合的な学習の時間では、行事の事前・事後学習の中での「調べ・実践・自己評価・発表する」する活動を通して、自主的に課題を解決しようとする力を養う。
- ・職業科や総合的な学習の時間を中心に、各教科でコンピュータの使用機会を増やし、コンピュータ操作や情報リテラシーを身に付ける学習を進める。

○その他の指導

- ・学校・学級での役割、クラス内の係活動を設定し、集団の中での自分の役割に気づき、責任をもって活動する姿勢を育む。
- ・様々な教育活動を通して、非認知能力(主体性を高め、自らすすんで行動できる力)を育む。

6 生徒数

	男 子	女 子	担任
1 学年	4 名	1 名	大重裕嵩・佐藤 麗
2 学年	7 名	3 名	峰野 愛子
3 学年	6 名	2 名	三瓶 順一郎
全 体	17 名	6 名	
	23 名		

7 週時程と指導の形態

	月	火	水	木	金
1	保健体育 学 級	音楽 学 級	家庭・数トレ 習熟度別2展開	保健体育 学 級	生活単元学習 学 級
2	国語 習熟度別3展開	数学 習熟度別3展開	家庭・英語 習熟度別2展開	国語 習熟度別3展開	音楽 学 級
3	学活 学 級	社会・理科 習熟度別2展開	英語・家庭 習熟度別2展開	美術 学 級	職業 学 級
4	道徳 学 級	理科・社会 習熟度別2展開	数トレ・家庭 習熟度別2展開		作業 学 級
5	総合的な学習の 時間 学 級	保健体育 学 級	国 語 日常生活の指導 学 級	数学 習熟度別3展開	保健体育 学 級
6	国 語 日常生活の指導 学 級	国 語 日常生活の指導 学 級		国 語 日常生活の指導 学 級	国 語 日常生活の指導 学 級

※上記のグループをベースとするが、指導内容によっては形態を変えて指導に当たる場合がある。

8 各教科の年間指導計画

教科ごとに年間の指導計画を明らかにし、指導内容をわかりやすくする。教科担任制を取りつつも各教科・グループで連携を取りながら、生徒にわかりやすい指導を進める。

9 個別指導計画

一人一人の生徒の状況や実態を十分に把握するとともに、個々の課題や指導内容を明らかにし、わかりやすい指導を進める。

10 学校生活支援シート

学校と家庭、関係機関が連携して生徒に対して適切な支援を行うために「学校生活支援シート」の作成を進めていく。

11 保護者会について→日程は別紙参照

保護者との連携を深め、同じ視点に立って生徒に接していく関係をつくっていくために重要な機会となる。日頃の学習活動や学校での様子を理解していただくとともに、家庭での様子を共有し、情報を交換するなど子育ての輪が広がっていく大切な場でもあるとの視点に立ち、別紙の日程で保護者会を設定する。

12 進路指導について

- ・卒業後の多様な進路に向け、保護者と共によりよい進路選択ができるような対応をする。
- ・職業科、道徳科、学活、総合的な学習の時間等において将来の生活設計、進路選択等の内容を取り上げて意識を高め、主体的に進路を選択できるように指導を進める。
- ・生徒本人・保護者との二者・三者面談を通して、生徒・保護者の意思を確認するとともに全員の意思が一致した取り組みができるように関わる。

13 生活指導について

- ・基本的な生活習慣の確立は、生徒の成長にとって欠かせない。中学校段階での生活習慣が今後の生活のベースとなるので、家庭と協力して見直しを進めるよう話し合っていく。
- ・周りをよく見渡し自分を振り返る態度を育て、社会で必要な振る舞い、挨拶・返事など、場に応じた対応ができるように指導する。
- ・集団を意識した体験を通して、広い視野をもった思いやりの心を育てる指導を進める。
- ・態度や振る舞い・発言に対して自分自身が責任をもつことを意識させ、集団と関わっていくことのできる態度を育てていく。
- ・生命を尊び、自己理解を進め自分自身を大切にする心を育むとともに、他者に対する思いやりの心を育てる。また、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年3回のいじめ防止授業などに取り組む。

☆携帯電話、インターネット、メール等の使用ルールとマナーについて家庭と連携して指導を進める。

14 研究

- ・自立する姿勢を養うために、係活動や当番活動において、自分の役割をはっきりさせ、責任をもって取り組めるよう指導する。
- ・自分の意見をもち、その考えを相手に正確に伝えられるように指導するとともに、お互いの意見を受容できるよう、様々な教育活動を通して指導していく。
- ・職業の時間で、主体的に自分の役割を果たしたり、必要な改善点を互いに交換したりして、責任感や協調性を高められるように指導する。

15 行事について

- ・様々な体験的学習を通して、集団で活動する際のルールやマナーを身に付けられるよう指導を進める。
- ・様々な役割を準備し、積極的に行事に関わっていけるようにする。また、その体験の中から自分や友達の特性に気付き、集団の中で力を出し切り、認め合う経験ができるようにする。
- ・友達や教師と協力して事前の準備を進めていく中で、責任をもって行事に関わる力を育てる。